

2013年度 第1回の整数論セミナー

日時：2013年4月12日（金）16:30～18:00

場所：〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1
早稲田大学西早稲田キャンパス（旧・大久保キャンパス）
61号館4階413室（61-413）

講演者：室井 和男

タイトル：バビロニアの整数論と三角関数表プリンプトン 322

アブストラクト：

紀元前1800年ごろの粘土板 Plimpton322 は、1945年の発表以来、多くの数学者や数学史家たちの関心をひきつけてきた。

それは、そこにある15組の数値から、三辺の長さがすべて整数である15個の直角三角形がつくれ、しかも一つの角が45度から30度まで漸減しているように見えるからであった。

しかし、その15組の数はどのようにして得られたのかが謎であったのである。

ところが2001年にイギリスの E. Robson が Plimpton322 は二次方程式の問題集であるという「とんでもない説」を発表し、それをアメリカ数学協会が表彰したため、インターネットの解説や数学史の通史本に彼女の誤解がそのまま記載されているのが現状である。私は、2007年の9月までに、Plimpton322の数表の作り方を解明し、これがある三角関数表であると確信した。

本講演の時点でまだ出版されていない私の論文（英語）に基づいてプリンプトン 322の解明をし、俗説を排除したい。